

1. 授業の概要

平成 27 年度前学期における教職科目 B「美術科教育法 I」を取り上げる。これは主に 2 回生を対象としたものであり、中学校および高等学校美術の教員免許を取得する際に必須となっている授業である。登録学生は学校教育教員養成課程美術教育専修の学生 2 名、芸術文化課程造形芸術コースの学生 9 名、計 11 名である。

(1) 授業の目的

本授業は「現代の学校教育における美術教育の存在（意義・目的）を知るために、中学校美術科教育の指導に必要な能力を身につけ、学習指導要領に対する深い理解、教科書研究による教育内容の理解、指導に必要な基礎基本を習得する」ことを目的とするものである。

(2) 到達目標

上記(1)を受けて以下の到達目標を設定した。

- 1) 中学校美術科教育に必要な基礎的な知識・指導力を身に付ける
- 2) 学習指導要領を深く理解し、教科書にある教育内容を把握することができる
- 3) 中学校美術科における活動を企画・立案し、実践することができる

(3) 主な取組の工夫

上記(2)達成のために、主として「他者との協同」を重視した「プレゼンテーション」やディスカッション等の「グループワーク」に重きを置いた授業構成とした。

- ①「子どもの造形活動における発達と類型」に係る講義とディスカッション
- ②「法則化」についてのディスカッション
- ③「図画工作科の性格と目標」に係る講義とディスカッション
- ④「美術科の性格と目標」に係る講義とディスカッション
- ⑤「年間指導計画」の作成
- ⑥「活動の提案」の企画・準備
- ⑦「活動の提案」のプレゼンテーションとディスカッション

例えば③④では、学習指導要領の内容の理解を深めるために、そこに示されてある観点をもとに各自の小中学校時代の学習経験を振り返り、その意義についてディスカッションを行った。

また⑤および⑦⑧では、提案された活動に受講生全員で実際に取り組むプレゼンテーションや、それを受けたディスカッションを行った。このように具体的な「他者との協同」を意図的に設定することで、受講生は実感をもって多様な意見に触れることができ、文献より得られた知識への理解もより深まるものと考えたのである。子どもたちのつくる行為の意味を理解する上で不可欠なものと考えているためである。

2. 授業評価の方法

上記 1 (3)に示したような段階を踏んで理解を深めすことを企図したことを鑑み、質問は選択式と改善点に関する自由記述で、解答率は 10/10 人であった。以下 3 に、質問項目と併せてその結果を報告する。なお紙面の都合上、自由記述の回答は摘要とした。

3. アンケート結果

(1) 尺度型

別表内①～⑦は 2 (3)①～⑦と同じである。なお⑧は「本授業に係る予習・復習への取組」、⑨は「教員の話し方や配布資料等」である。

(2) 自由記述型

① 授業内容に関して今後も継続すべき点

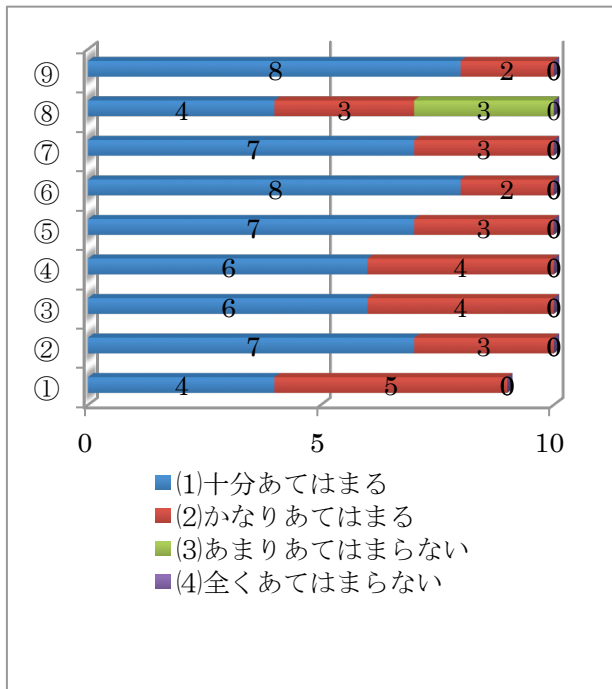
- ・グループディスカッション。他の地域の実践など様々な活動を知ることができて良かった。
- ・年間指導計画や活動の提案をしたことで、生徒の立場ではなく教員の立場としての自覚ができ、提案できたと思った。
- ・年間指導計画と授業提案。教師のあり方を考える良い機会になった。

② 授業内容に関して改善すべき点

- ・過去の先輩の例などを参考にしたい。授業提案を写真等で記録しておいてほしい。

③その他（意見・要望等）

- ・教育を受ける立場でなく、教える立場という新しい見方での学習ができ、自覚と具体的な方向性を決める良い機会になった。
- ・活動提案は自分がするのでも人のものを見るのも楽しかったし、何より自分になかった発想や考え方を見ることができて勉強になった。
- ・美術教育から広がる学びの基本が何となくではあるけれど感じられて良かった。



4. 「授業時間外学習の促進」に係る取組

(1) 「年間指導計画」の作成・発表

主として到達目標 1)の知識面の充実、2)の学習指導要領に係る理解の促進、3)の美術科における活動の企画・立案に係る要件の把握をねらいとして組織したものである。

この取り組みに至るまでに受講生は「図画工作科の性格と目標」や「美術科の性格と目標」について講義を受けてはいるが、「年間指導計画」を作成するにあたり、そうした講義内容はもとより自身の経験等もふまえた3年間を見通した計画を作成しなければならないため、かつその後に発表および意見交換会が予定されていたため、授業時間外に当該計画の作成および発表の準備に取り組むことが必須となる。

つまり前時までに学んだ講義の内容を整理した上で自分なりのアイデアを盛り込む必要があるため、授業時間外に全体構成をじっくり考える必要があるのである。

(2) 「活動の提案」の企画・準備・発表

これは、上記(1)で作成した「年間指導計画」の中から題材を一つ選び、中学校の教師を相手に当該活動を提案し実際に取り組んでもらうとともに、この件に係る意見交換を行うという設定で組織したものである。模擬授業ではないが、具体的な活動を提案し実際に受講生全員で取り組むものであるため、事前に提案者自らが当該活動を行い、作品制作をしておくことを課した。自らの経験がないと提案自体に身体性が伴わず、依って題材の可能性や課題が見え難いと考えたためである。

アンケート結果を見ると全体の7割程度の受講生は事前準備をきちんと行い、自分なりの考えをもって活動提案の発表を行っていた。

(3) 総括

プレゼンテーションやディスカッションを前提とした授業構成は、時間外学習を促進する上で大変有効なものであるということが出来る。自分の考えを他者にわかりやすく伝えるためには、授業時間外において講義で得た知識内容をあらためて復習し再構成することが不可欠だからである。とはいえ授業時間外学習の促進に係る上記(1)(2)の取組およびその成果が幾分結果論的なものであり、かつ3割の受講生は十分にできていなかったこともまた事実である。

このことから、受講生によるプレゼンテーションやディスカッションのありよう、そしてそこに至るまでの時間外学習への取組のありようについてもあらかじめ想定した上で授業計画を構想することが必要であるといえる。次年度に向けての大きな課題の一つである。

5. 総括

以上のことから、1(3)で取り上げた取組の工夫は、特に同⑤～⑦における時間外学習の促進を通して到達目標を達成する上で（結果的に）有効な方策の一つであったと考えることができる。とはいえ、個々の学生の実態に応じて「年間指導計画」や「活動の提案」自体の質を向上させること、より活発なプレゼンテーションおよびディスカッションのあり方を、より計画的・段階的に探求していくことが、同到達目標そして本授業の目的を達成する上できわめて重要なものであるということができよう。

次年度以降、さらに精緻化した取組を組織していくことができるよう心がけたい。